

# 令和2年度学校運営協議会報告

## ～学校関係者評価についての総括～

### 今年度の運営協議会の概要

今年度は2回の実施となりました。1回目は今後の活動計画、今回は、今年度の学校評価（教職員、保護者、生徒）の集計結果を運営委員のメンバーと共有しました。その中からでてきた課題と成果をふまえて、次年度に取り組むべき内容等について協議をおこないました。小学部棟の新校舎の見学もしていただきました。



小学部棟見学の様子



小学部棟見学の様子

### ■各委員から今年度学校運営協議会を終えての感想

#### ①篠田委員（本校育友会長）

委員のみなさんがここまで、いろいろと考えてくれているのがとても嬉しいです。支援学校の子どもたちは当たり前のように作業所に行くという選択肢だけでなく、もっと地域の中で活躍できる場面が増えるとうれしいです。

#### ②林委員（グランホテル代表取締役）

まず、支援学校の卒業生がどの程度就職し、また、就職する生徒以外はどのような進路に進んでいるのか知れたのでよかったです。将来的に自立を目指している生徒もいるし、そのために何か力になればと思います。私の会社でもみくまのの卒業生を雇用できたらと考えています。

#### ③湊委員（株式会社心楽 代表取締役）

支援学校の児童生徒が将来働いてお金を稼いだりできるようになってほしい。大きな視点で考えると物事はなかなか進まないのので、まず何かを取り組んでみて形にしてみるのが必要ではないかと思います。



#### ④下阪委員(熊野川フラワーツーリズム推進協議会 会長)

徐々に取り組んで行くことが大事。環境に慣れるというか、ただ雇われているという感覚ではなく、自分の利益となり得るような。子どもたちが得意なこと、例えば版画のイラストなどを使ってもらえたり、そのような力をいかせたりする場所があればいいと思います。新宮市も農福連携(農業と福祉の連携)について検討し始めようという動きがあるので相談してもいいのでは?

#### ⑤村上委員(みくまの農業協同組合 常任理事)

我々の会社でも農福連携については検討しているが、まだまだ浸透はしていない。もっと地域の中で浸透するように3年~5年スパンぐらいで長期的に考えていくことも大切。障害をもった方も自立を目指していかないといけない。今後、検討をしていきたいです。

#### ⑥中平委員(蜂伏地区自治会長)

先ほど、学校の方からも学部をこえた系統性が課題と言っていたが、農福連携でも系統性を踏まえて取り組んでいければいいと思います。

#### ⑦校長

今回の学校運営協議会の方からいただいた意見は本当に貴重なものでありました。今後は、学校としてICT教育の充実と地域との連携を踏まえた進路拡大等を考えていきたいです。一般の高校生でも自分の進路について考えるのは難しい時代ではあるが、みなさんと連携しながら児童生徒の力をつけていきたいと思います。

#### ⑧橋上委員(美熊野福祉会 法人本部事務局長)

みなさんの意見をふまえると子どもたちがいきいきと地域の中で生活ができて、楽しめる場を提供していくことが必要であり、今後も学校と地域が連携していくことが大切だと思います。このメンバーで学校運営協議会でも来年度もさらに良い取り組みができればと思います。



とてもいい雰囲気の中で協議会が進んでいきました。それぞれの立場で本校の児童生徒のために何ができるのか、具体的に進めていくためには何を考えていくことが必要なのかなど活発な意見交換ができました。